

# 月刊 岩小舎 6月号

## 講習山行の記録

..... 5月1日(土)~5月3日(月).....

### 応用ステップノ八甲田山 山スキー

.....

メンバー:工藤(講師)、横川秀樹、久野眞由美、沢口千鶴子、伊藤幸雄、遠足1名  
 記録 :伊藤幸雄

5月連休を利用して八甲田へ山スキーに出かけた。出来るだけ格安ツアーにするため、足は車、泊まりはテントとして5月1日~4日までの予定でおこなった。

1日、朝6:30上野駅集合のはずが7:00ごろメンバーが揃う。よくある寝坊遅刻だが、最近山時刻に慣れてきたせいかなメンバーもごく普通に受け止めていて淡々と準備している。

横川車1台で出発、当然ながら連休の高速道路は渋滞、渋滞で最終の黒石インターを降りたのは17:00過ぎになった。更にキャンプ地の酸ヶ湯温泉までは約1時間、途中でコンビニをさがすが、これがなかなか見つからず、あせってしまう。やっと一軒みつけ今夜の食料と酒を調達する。後でわかったが、酸ヶ湯まではこのコンビニが最初で最後の一軒であった。危なかった!

酸ヶ湯温泉近くには綺麗な公衆トイレが整備されていてテントやキャンピングカーの連中が利用していた。テン場が広いのでさほど窮屈



さは感じず、ゆったりと温泉近くにテントを張り、早速酒盛りを始める。

2日目は6時起床、朝飯を食べ7:30に高田大岳を目指し酸ヶ湯を出発。

ルートは酸ヶ湯~地獄湯ノ沢~仙人岳ヒュッテ~小岳~高田大岳~谷地温泉~バスで酸ヶ湯温泉、今年は雪が少ないようで地獄湯ノ沢をつめるところから岩が露出していてコルを過ぎるまでスキーを担いで登った。小岳を大岳方向

#### [今月の目次]

講習山行	
八甲田山ノ山スキー	1
白馬東面ノ杓子岳双子尾根	2
不動沢の岩場	3
廻り目平ノチェアキャンプ	4
鳥海山ノ山スキー	4
奥多摩ノ逆川	6
山の学習帳 No.1~磁北線の引き方その1	7
自主山行	
藤坂ロックガーデン	8
雪倉岳ノ山スキー	8
皇海山~日光白根山	9
奥多摩全山縦走	11
三ツ峠 RCT	13
小川山ノセレクション	14
日原ノ鷹ノ巣谷	14
日原ノ巳ノ戸沢	15
今月のTIPS~セルフピレイの疑問~	15
Mt. Movie	12
こちら技術委員会	17
同人便り~梅雨時の過ごし方~	18
編集室だより&会員一言集	19
5月の山行一覧・7月号の予定	20

から廻ってトラバース気味に高田大岳を目指したが、できれば小岳を直登し高田大岳に滑り降りるのがGOOD。

おいしい斜面をちょっと逃した感じでスキーを担ぎ、急登の高田大岳を登りはじめた。急登の斜面は完全に雪が無く、藪漕ぎをしながら夏道に入り頂上に 12:30 に着く。頂上からは青森湾が見えたが風が強い。ただ谷地温泉側の斜面にはたっぷり雪がついていたので全員ちょっと安堵。

滑り出しはちょっと狭いのでやや怖さを感じるが、それを過ぎると大きな斜面を気持ちよく滑ることが出来た。下部は林で木の間を滑り 14:00 に谷地温泉に到着。

バス停で一日3本しか運行していないJRバスを待っていたら、地元のタクシーが止まってくれて酸ヶ湯温泉まで乗せてくれた。酸ヶ湯温泉では有名な千人風呂に入るが、ここも観光ブームで大型バスに乗った観光客でいっぱい。千人風呂は、一応混浴になっており数人の勇敢

な女性の姿もうっすらと見えたかも。

3日目は天候が今一で、地元の人からは山は雨との話も聞き予定を変更して、ロープウェイを使用して宮様コースを滑ることにした。頂上にあがると予想通り雨が振り出した。急ぎ滑り始めたが、宮様コースのはずが中央コースを滑ってしまい、そのまま酸ヶ湯温泉の真上に到達、最後の急斜面を滑って終了。

天候の回復は期待できそうもないので、またまた千人風呂に入り、旅気分を味わって午後は東京に向けて帰ることにした。帰りの高速道路も渋滞40km。上野着は23:00になった。

【行程】

5月2日

酸ヶ湯温泉(7:30)～仙人岳ヒュッテ(9:40)～高田大岳(12:30)～谷地温泉(14:00)

5月3日

ロープウェイ駅(8:30)～山頂(8:40)～酸ヶ湯温泉(10:20)

..... 5月1日(土)～5月3日(月) .....

## 応用ステップ / 白馬東面・杓子岳双子尾根

.....

メンバー：田中良一(講師)、宮下卓宏、浅村和史、伊藤栄子、阿出川忍、田中治男、小林幸恵、  
齊藤典子

記録：伊藤栄子

天気が最終日崩れる様子的のため、当初の予定を変更し、ツェルト泊で2日間になった。

不要な物をテントにデポし出発、広い斜面を登っていくとガスが切れ、白馬岳が目前に現れた。どんどん高度を稼げて順調に？進んでいったところ、2095m付近でハプニング。足の長いA氏のアイゼンが、後ろについていたA女史の額にぶつかり負傷。タイミング良くK医師が参加していた為、手早い処置を施してもらい行動再開。

斜面にはシュプール跡、白馬山荘直下、大雪渓にはスキーヤーが颯爽と滑降していた。杓子岳到達前の1時間の急登はきつかったが、無事登頂しビバーク地へと向かった。

2日目、白馬岳山頂はまだガスがかかっていたが、7:30頃アイゼンを着ける時には視界が利き、辿ってきた稜線、四方の山が姿をみせた。

下降開始で覗くと雪面の先にガレた細い尾根が続いていて、ルートを見極めることが難しいと感じた。

ハイマツ、石楠花を踏みつけたり急斜面を懸垂したり、高度を下げてから沢沿いに下りたり、初経験の自分にはまるでサバイバル体験の山行だったが、何故か楽しい思いが残った。

皆様、いろいろな場面があったのですが、記憶力が乏しく、楽しく上手に伝えられませんが、ご了承ください。

【行程】

5月2日

猿倉(6:30)～双子尾根(9:25)双子岩が後方に見える～2590m地点(13:20)～杓子岳(14:25)～村営頂上小屋周辺ビバーク(16:00)

5月3日  
ピバグ地(6:00)～白馬岳(6:50)～小蓮華尾根

2735m(8:25)～2570m 地点懸垂開始 (10:00)～  
2080m(13:00)～猿倉(15:00)

..... 5月15日(土) .....

## 瑞牆山周辺 / 不動沢の岩場 RCT

メンバー：加藤泰平(講師)、荒井剛志、木之下悟、横川秀樹  
記録：横川秀樹

朝 7 時過ぎに、瑞牆山の植樹祭駐車場に到着。講師の加藤さんと無名山塾元同人の荒井さん(現・山岳同人マーマットの代表)は前夜入りして、テントを張っていた。

8 時に駐車場を出て、不動沢の登山道(廃道)入口まで車で 5 分ほど。(ここは道がとても悪いので普通の車ではツライ)

登山道を 20 分ほど進むと右手に屏風岩。ここを過ぎてさらに 20 分ほど行き、沢にかかった丸太の一本橋を渡ると左にカーテン状壁。きょう最初に登る岩だ。ここに荷物を置いて少し奥の不動滝まで散歩をしてくる。そしていよいよクライミング開始。

登るルートは「不動沢カーテン状壁マル友ルート」。グレード 5.10a のスラブで、長さは 50m ロープでギリギリ届くとのこと。ここを、まず荒井さんと木之下さんがペアを組んで登り、次に加藤さんリードで私が続く。ルート全体でボルトが 4 本と少なく、最初の 10m はプロテクションがない。リード役は最初から緊張することだろう。続く 1 本目のボルトから 2 本目までが核心部(5.10a)。この部分は、まず左へトラバースしなければならないが、スラブに慣れていない私にとって、ほぼ垂直に感じる壁をフリクションだけで横移動するのはなかなか厳しかった。

このあとも長いスラブを息を殺しながら登り、灌木の終了点へ。この先の 2 ピッチ目、5.8 のオフウィズス(ワイドクラックより狭い。体が半分入るくらいのクラック)を加藤さんが先頭で行こうとするがカムデバイス故障のため断念した。

スラブはこの一本で終了にして、次は屏風岩まで戻り、きょうのメインイベント「クラック・クライミング」の始まりだ。

トッパーのセット後「おしん(5.8)」でウォームアップをし、「不動沢愛好会ルート(5.10a)」に

チャレンジ。中間地点のフレークに立つまでは力づくで何とか行けるものの、そこから先のクラックは手も足も出そうにない。右手は右のクラックに、左手は左側のクラックでジャミングを決めようとするが、指が痛いだけで全く体が上がらなかった。

気分は完全に降りるつもりだったが、下からいろいろとアドバイスを受け、半分泣きながら何とか終了点へ。全身ポロポロとなったが、30～40分後に再チャレンジ。今度はテンションを入れることなく登りきることができた。やはり二回目となると上達しているらしく、それが岩の面白いところでもある。

このあとはボルダーエリアへ移動。3メートルぐらい落ちて踵を痛めたりしたが、充実した楽しい一日だった。

### 【行程】

廃道入口 8:10～屏風岩 8:30～カーテン状壁 8:50～不動滝 9:00/9:10～カーテン状壁にてクライミング 9:20/11:50～屏風岩にてクライミング 12:00/15:30～廃道入口 15:45～ボルダーエリア 16:00/16:50

### お知らせ

#### 原稿の宛先

月刊岩小舎の原稿は、下記までお願いします。

講習山行 山野美香

自主山行 福田洋子

同人便り 坂口理子

今月の一言 横川秀樹

メールアドレスがわからない場合は、

sanjc2004@yahoop.co.jp までお問い合わせ下さい。

..... 5月15日(土)~5月16日(日).....

### 廻り目平 / チェアキャンプ

メンバー:岩崎元郎、工藤寿人、金沢和則他無名山塾会員計28名、ゲスト20名  
記録 :伊藤由以

5月15日(土)、前夜発の工藤実行委員長と宮下君・若尾さん、そして早朝次々到着組の伊藤夫婦・山野夫婦・久野さん・伊藤は、料理の達人若尾シェフにバナナパンケーキ&コンビーフ&コンビーフパンケーキとコーヒーをご馳走になってから、それぞれ仕事を開始する事になった。

伊藤夫婦・久野・山野ダーリンはセレクションに自主に出かけた。ベースキャンプ残留組は工藤実行委員長の指示を受けメインの食料基地や、雨を考慮したタープを設営。次に事務所で組み立て予行練習済みの宮下・若尾テント設営隊長を先頭にテントの設営もスムーズに済んでいく。良い天気である。

ほんの一週間前に禁酒宣言したはずだったのにちょっと、いやいや、いっぱい働いた後の一杯は実においしい~!

お昼過ぎには、岩崎主宰たちも到着。だんだんと人も集まり始めキャンプサイトは賑やかに盛り上がってきた。キャンプファイヤー用の薪集めにも力が入る。カレーの仕込みも終わるが共催者の到着が遅い…。そんなこと考えていたらすぐ皆到着!班毎にわかれ、ご飯を炊いて美味しいカレーをお腹一杯食べ2つの大鍋があったという間に一つになった。その間に、不動沢講習組も到着。大満足の講習だったらしい。本科生の木之下氏は特にニヤニヤしゃばなしであった。

お腹も一杯になり、楽しいキャンプファイヤータイムへとプログラムは移って行く。年々凝った出し物が多くなった気がするのは私だけ?ナカナカ皆様芸達者。来年は、無名山塾ピンクレデ

ィーやキャンディーズを結成。無名山塾フォーリーブスやスマップなんかデビューしちゃいましょうかねえ…。炎は天高く火の粉を上げ、楽しい歌声やおしゃべりも途切れることなく夜は更けていった。

金沢さんは今日も仕事、明日も仕事というハードスケジュールの中。ほんのわずかながらもしっかり皆の衆にアノ笑顔を披露して即とんぼ返り。さすが!技術委員長!講師の鑑!

翌、16日(日)は朝から雨。朝食後解散となってしまう。何ともお恥ずかしい事に、ビールや赤ワインの誘惑に負け、夜のよなか~まで、何人も無理やりおしゃべりにつき合わせて寝付くのが遅かった私は、福田さんが起こしに来てくれるまで気分よくぐっすり寝込んでしまっていたのだ。朝食もとくに済み、もう片付けが始まっていたのであわてて手伝い始めるも、目覚めきっていなかった私がかえって邪魔してたのかも…。あ~!不覚じゃ~!雨も自分もうらめしや~!

でもやっぱり、チェアキャンプは今年も楽しかった。

来年は、山塾メンバーの中でも酒豪でない自分は、お酒は程々にたしなみ朝はしっかり起きられるようにしなければと反省。

手作りのプレゼントをいつも用意してきてくれる人。このキャンプを楽しみに集まってきてくれる人たち。こういった催しを続ける事はとても難しいと思うが、これからもみんなで協力し合って続けていけたら素晴らしいと思う。来年も、楽しいキャンプがお天気にも恵まれて出来ますように!また皆で盛り上がりましょう!

..... 5月22日(土)~5月23日(日).....

### 応用ステップ / 鳥海山 - スキー旅(スキー納め) -

メンバー:工藤寿人(講師)、伊藤幸雄、坂口理子、久野眞由美、斉藤典子、遠足1名

おはよう庄内往復切符を購入し新幹線で新庄に 11:00 到着、そこで陸羽西線に乗り換えて酒田へ、更に羽越本線に乗り換えて羽後本庄まで行き、由利高原鉄道で終着の矢島に 14:30 に到着した。線を乗り換えるたびに、列車が段々小さくなっていき最後には花柄模様のかわいいワンマン列車になる。

矢島の駅は、町のコミュニケーションセンターと兼用となっていて、学生や年寄りのたまり場の存在になっていた。当然、町じゅうの人が知り合いのようで、子供たちに気軽に声をかけているおばさんやそれに応じている子供達の姿をみていると微笑ましい。たぶんスキーを担いで駅を降りた我々の姿は、その日の内に町じゅうに知れ渡るようなそんな素朴な町である。

本日の泊まりである錦旅館に荷物をおろし、早速、全員で街散策に出かける。旅館の 4 軒隣に佐藤酒造という古びた酒蔵があり、中年男性が老眼鏡をかけながら一人で事務をしていた。我々がお邪魔すると「あんた方、スキー担いで来た人だね」と早くも言われてしまう。そこでお願いして、酒蔵見学をさせてもらい、更にご好意で試酒までさせてもらった。当然、各人がおみやげの酒を買ったのはもちろんだが、今宵の一杯ということで樽から仕込んだばかりのホヤホヤの一升酒を購入し、向かいの魚屋で地元の豆腐と漬物をゲット、夜まで待てずに夕飯前に酒盛りをしてしまった。これが最高に上手い!!

旅館は嫁さんと姑(これ想像)の二人だけでやっているような小さな宿ではあるが、これまた味のある旅館でとても暖かい感じがする。食事派手さは無いが中味が濃く上手い。また宿賃も 6500 円と、とてもリーズナブル。

2 日目はいよいよ本番の鳥海山スキー。天気は快晴、旅館からタクシーで鳥海山山麓の祓川まで行き、水芭蕉が咲いている竜ヶ原湿原を歩いて雪渓にたどり着く。

山は夏道でも歩けるようになっており、多くの登山者も登っていたが、我々はスキーで登り

始める。今年の鳥海山は雪が少なく、スキーを脱いで藪漕ぎをしなければならないところが少し多目ではあったが、それでも順調に高度を稼ぎ 2 時間後には七つ釜避難小屋に到着した。

雪渓の雪質はやや固めで巾 2m ぐらいの割れ目があちこちに出ていたが、登るのにはそれほど問題にはならなかった。最後の七高山頂上直下の急坂を大きなキックターンを繰り返しながら登り 13:30 に頂上に着く。そこからは日本海を見ることができた。工藤さん曰く「過去何回か鳥海山に来ているが日本海を見たのは初めて」とのことだった。

いよいよ今シーズン最後のスキー滑走。鳥海山山麓に広がるブナの森と遠くまで広がる本庄平野を見下ろし、頂上から気持ち良くスタート。滑走面が広いこともあり各人が自由にシュプールを画く。雪渓の割れ目に注意しながら 30 分後には避難小屋に滑り込み、一休み。皆、スキーシーズンの終わりを惜しむように大事に雪の感触を味わっているようである。

残るダウンヒルの雪渓を滑り、最後の藪漕ぎをして祓川ヒュッテに 15:00 着。後は羽後本庄までタクシーを使い新潟経由で帰路についた。

今回の山行で山スキーの面白さはもちろんだが、地元の人々とのふれ合いや隠れた一品の美味しい物探しが出来たことは最大の喜びである。……小さな旅をした感じ。因みに佐藤酒造では通常「酒蔵見学や試酒」のサービスは実施していません。

#### 【行程】

5月22日  
東京(7:36)～新庄～酒田～羽後本庄～矢島(14:28)

5月23日  
矢島(7:30)タクシー～祓川ヒュッテ(8:00)～七つ釜非難小屋(10:00)～七高山頂上(13:30)～祓川ヒュッテ(15:00)～帰路

..... 5月23日(日) .....

## 基本ステップ / 奥多摩・逆川

メンバー:小林英男(講師)、宮下卓宏、向原侑希、福田洋子、南谷やすえ、木之下悟、田中治男、  
福島彰男、シニア1名、遠足1名  
記録 :福島彰男

JR 奥多摩駅に集合し 9 時半のバスに乗り川乗橋で下車。そこから通行止め柵から林道に入り約 20 分位で本谷に入る地点に着く。そこで身支度の上準備体操を行う。スタート前小林講師より笛を使っての合図の確認「ピー」は NO(待て)「ピッピ」は OK(進め)との説明のあと道路脇から踏み跡に沿って急坂をおり本谷に。いよいよ遡行開始。天候は曇天で肌寒い。他のパーティもなく沢は静まりかえり暗かった。なんとなく水の中に入るのに抵抗があった。遡行時は膝まで浸る程度の深さであったが直ぐに腰まで入らないと行けなくなる所に、いずれ水にドブリー浸かるのは分かっているのだが躊躇った。覚悟を決め通過。一度浸ればあとはどうと言うことはなかった。小林講師によると今日は水量が多いとのこと。

小滝を幾つか越え巨岩帯、ナメとナメ小滝、ゴルジュと続く。小林講師より初心者に滑らない方法の指導。滝では講師・先輩(研究生・本科生)の皆さんのお助け紐やザイルによる滝登り、一部アブミを使って釜からの滝登り、高巻きでは確実なステップなどの注意を受けながら巻く。途中深い釜に入るのを避けへつりで滝の所ま

で行こうとするがなかなか上手いかず何人が水のなかに“ドボン”。またある滝では釜を避け川の両壁に両手と両足で支えながら(身体をうつ伏せ状態で)滝の登り口まで何人がトライしたがやはり水の中に“ドボン”、見事成功したのは小林講師ともう一人。また冷たさ何のそのとシャワークライミングを是非「やってみよう」と言い果敢に挑戦した若き女性(遠足)もいた。遡行途中でトップを小林講師から研究生に交代する場面もあった。最後は 10m の大滝を一人は直登、他は高巻きし無事遡行を終える。あとはウスバ林道で鳩ノ巣駅に。楽しみにしていた蕎麦屋は既に閉まっていた。

<感想>

初めて沢に。今まで沢は暗い、臭い、危ない等のイメージが強く沢を避けてきたが今回体験して「変化があってもかく面白い」という一言である。今後病みつきになりそうである。

【行程】

入渓(10:45)～大ダワ沢出合(13:00～13:30)～  
ウスバ林道(15:40-16:00)～鳩ノ巣駅(18:00)

### お知らせ

#### 無名山塾・本科(登山学校)のご案内

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、2年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(48単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、Eメールで。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

TEL:03-3941-3481(平日 10時-18時) FAX:03-3941-3482

メール:ZUA11617@nifty.com

入会金:10,000円、年会費:12,000円

山岳保険料:8,000円(4/1～3/31)

# 山の学習帳 No.1

## 【磁北線の引き方 その1】

登山者への第一歩は、磁北線の入った地図を携行することだと思います。無名山塾に入りたての頃、磁北線を記入した地図を持つことが少々誇らしかったのを覚えています。皆さんはどのように磁北線を記入していますか。標準的な手順は以下だと思います。

- (1) 地図の西偏(磁気偏角)を確認。
- (2) 角度を測って最初的一本を引く(極細の赤い油性ペンを用いる。ボールペンはNG)。
- (3) (2)で記入した一本を基点に上下の辺に沿って 4cm 間隔に印を付け、上下の対応する点を結ぶ。

もちろんこれでよいのですが、問題は手順(2)の角度の測り方です。誰でも思いつくのは分度器を用いる方法。でも精度は分度器の大きさによって大きく影響を受けます。2万5千図ですと縦の一边は37cm程度になりますが、直系が10cmにも満たない分度器を使った場合には、かなり大きな誤差を生じる可能性があります。今回はこれを避ける方法として、分度器を使わずに磁北線を引く方法を紹介します。

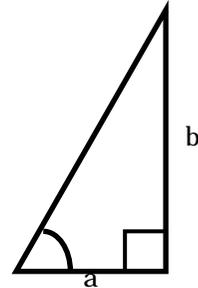


図 1

高校生 1 年生の数学で「三角関数」というものを習ったことと思います。三角関数には  $\tan$ (タンジェント)という関数があります。 $\tan$  の定義は、直角三角形の辺  $a$  と  $b$  のなす角を  $\theta$  とすると  $\tan \theta = b/a$  です(図 1)。両辺に  $a$  を掛けると、 $a \times \tan \theta = b$ 。これを使うと分度器が不要になります。

図 2 を見てください。厳密には地球は丸いので地図の上辺と下辺の長さは異なりますが、我々が山登りを行う緯度では近似的には同じ長さと思って差し支えありませんので、ABCD は長方形と見ることができます。従って三角形 ABE は直角三角形となり、図 1 の直角三角形を当てはめることができ

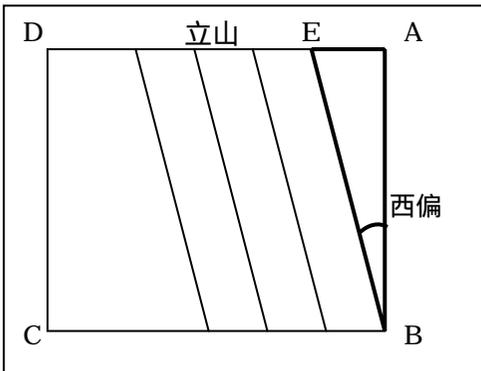


図 2

ます。図 2 の辺 AB、AE がそれぞれ図 1 の  $a$ 、 $b$  に相当します。AE の長さは計算できますので、分度器を用いなくても磁北線の傾きが記入できるのです。

例として「立山」の地図を見ると、西偏は  $7^{\circ}10'$  となっています。地図の高さ AB を計ると 37cm です。関数電卓を用いて計算すると、 $b = 37(\text{cm}) \times \tan(7^{\circ}10')$   $\approx 4.65(\text{cm})$ (小数点以下 3 桁を四捨五入)となります。これをつかって磁北線を記入する手順は以下となります。

- (1) 図 2 で地図の右上の点 A から D の方向に 4.65cm 計る。(E)
- (2) 点 E と点 B を結ぶ。
- (3) 手順(2)で引いた線に平行に 4cm 間隔で線を引いて行く。

1 つ注意が必要なのは  $\tan$  の計算です。電卓が“度”の単位になっているかどうかを確認してください。 $1^{\circ}$  は 60' ですので、 $7^{\circ}10'$  は  $7.1^{\circ}$  ではなく  $(7+10/60)^{\circ}$  であることをお忘れなく。

今回紹介した方法を用いると磁北線を精度良く書き入れることができますが、厳密には一枚の 2 万 5 千図に入る領域内でも西偏の値は定数ではありませんし、分度器で角度を測る方法でも実用上は十分かもしれません。また三角関数の計算できる関数電卓が必要となりますが、山に関数電卓を持って来る人はいないと思います。次回は電卓がない場合はどうすればよいのかを考察し、この方法の優位性を論じます。(研究生・山野昭人)

## 自主山行の記録

..... 4月29日(木)~4月30日(金) .....

### 藤坂ロックガーデン RCT

.....

メンバー:横川秀樹(L)、伊藤幸雄、浅村和史、山野美香

記録 :浅村和史

4月29日

8:30 頃岩場に到着し、横川/伊藤、山野/浅村の二組に分かれて登る。まずは簡単そうな「メインストリート」(IV+)、次いで「パピヨン岩稜」(IV)。ところが、懸垂下降した後ザイルを引いても動かない。逆側のザイルは...ちょっと動いた。でもそれまで。どっちを引いてもザイルの伸びる感触しか伝わってこない。山野さんがブルージックで登り返し、懸垂用に使ったスリングにちょうど乗る形になっていたザイルの結び目を見つけた。はじめにザイルを引けなかったのはどこかに結び目が引っかかっていたのか? 午後にも一度横川/伊藤ペアのザイルが引けなくなった。結び目が岩に引っかかっているようだった。まだ岩があまり登りこまれていないせいで引っかかりやすいのだろうか。そういえば手をかけると指がとても痛いホールドが結構あった。

昼過ぎから岩場に陽があたるようになる。まぶしい。そして暑い。空気が重く動かない。水気を

感じない。人もいない。もしここで夏の陽射しにあぶられたら体重が減りそうだ。登りきって岩場の上に出たときだけ風を感じることができ、周りに目をやれば新緑の季節を感じる。

「スパイラル」(5.9)など午後に登ったルートは面白く登れた。この岩場の管理者の斉藤さんは、「ゴジラヘッド」(5.9)などがお勧めルートと言っていた。

4月30日

6:00 頃より、横川/浅村で登り始める。「グッドラック藤坂」(5.9)、「赤茶坊主」(5.9)、「プロガード」(5.10a)などが面白かった。12時半ごろ終わったため、あまり暑くはならなかったが、十分暑くなりそうな気配が漂っていた。

この岩場は人があまり来ない。一日目は祝日で晴れていたにもかかわらず、山塾4人とあと1グループ(2人)、そして斉藤さん。二日目は山塾2人のみ。ルートはたくさんあり、マルチピッチもできる。

..... 5月1日(土)~3日(月) .....

### 大雪渓から白馬岳~雪倉岳スキー縦走

.....

メンバー:岩本一郎(L)、金沢和則(SL)、坂口理子

記録 :岩本一郎

数年来、蓮華温泉をベースにした山スキーを実施してきた。昨年、懸案だった朝日岳往復を完了したので、今シーズンは、大雪渓から白馬山荘に入り、白馬岳から雪倉岳までスキー縦走し蓮華温泉に下る計画とした。天候に恵まれ予定通りトレースすることができた。

大雪渓の下部はシールで、上部はスキーを担ぎつぽ足で登った。入山者も多い。晴れているので白馬岳山頂から雪倉岳が確認でき、ルート

のあたりをつけることができた。

柳又谷源流部から見ると、長池に向かうにはあまり下り過ぎないほうが良いようだ。ここは割り切って長池まではトラバースの滑走をすることにした。朝の硬い雪面をトラバース気味に滑って行く。旭岳に登ってゆく人は見えるが、雪倉に向かうパーティーは少ないようだ。ところどころ雪が消えているところもあるが、広い雪原状でスキー行動に問題はない。数回立ち止まって長

池に目標を定めて滑走してゆく。池の手前の緩やかな土手状を乗越すと雪の窪地となっている長池に到着。このあたり精悍な旭岳と後姿を見せる白馬岳とで独特の雰囲気である。

長池から稜線までつぼ足で登る。レキやハイマツをわずかに踏むと稜線である。ここからは再びスキーを履き鉢ガ岳を水平トラバースで巻く。雪が緩んで思ったより滑りが悪く、スキーで歩くような感じになり、汗をかかされた。雪倉避難小屋の手前で雪が切れたのでスキーをザックにつける。雪倉山頂までは雪の消えた夏道を登る。雪倉南面は雪消えが早いのか見慣れた東面とはまったく異なる表情で、はじめは雪倉岳とはわからなかったほどだ。50分ほどの登りで雪倉岳の山頂に到達。天気も良く、あっさりと登りついたという感じである。

山頂で休憩しているうちに蓮華温泉から登ってくる人が到着し始めた。私たちが瀬戸川床までの大滑降にむかうこととする。今山行のハイライトである。雪倉東面は沢の左岸の大斜面コースが良いのであるが、斜面を俯瞰すると、やはり雪の消えたところがあるので、今回はトレースを見ながらおおむね沢沿いに滑降した。標高差1200m以上にもなる斜面は長く、途中何度も立ち止まりながら滑降したが、まだ下なの？という感じ。やがて雪倉ノ滝に突き当たり、右に迂回して瀬戸川床に滑りついた。やや少雪ではあるというもののスノーブリッジは問題なく渡れた。あとはシールで滝見尾根に上がり、トラバースで

蓮華温泉に入った。

計画段階では金山沢滑降も検討課題となった。今回は見送ったが、大雪溪の入り口から金山沢を観察し、行けそうな感触を得た。このように検討対象となるルートが広がってゆくのは楽しみである。

#### 【行程】

5月1日 晴

猿倉(7:35)～大雪溪～白馬山荘(14:15)～白馬岳往復～白馬山荘泊

5月2日 晴

白馬山荘(7:25)～長池(8:10～8:30)～雪倉岳(10:30～11:15)～瀬戸川(12:15～12:30)～蓮華温泉(13:55)泊

5月3日 晴のち霧

蓮華温泉(7:25)～天狗原(10:50～11:20)～梅池スキー場 Gondola 山頂駅(12:00)



..... 5月2日(日)～5月5日(水) .....

### 皇海山～日光白根・縦走

.....

メンバー：福田洋子(L)、松本善行(SL)、矢田実  
記録：福田洋子

さすがはGWと云うべきか、百名山と云うべきか皇海橋のたもとは車でいっばい。私達の出足が遅かったのか既に下りて来た人もいて身なりを整えている。不動沢沿いの登山道を右岸・左岸と渡りながら進むがそのうち登山道と沢が一体化してほとんど沢登りの様相を呈してきた。水量も決して少なくはない。「これが一般道!!」など

と3人共驚きながら沢の詰めに突入、岩を流れる雪解け水はケッコウ冷たい。いかにも源頭らしくなってきたあたりで右にあがり尾根に出た。不動沢のコルだ。それまでほとんど無かった雪も出てきたが案の定ズブズブで腐っている。行き交う登山者のハイキングのような足回りを勝手に心配し(アキレ)つつ巻き気味に最後の登り。

先ほどすれちがったスニーカーの学生グループがピストン組の最終だったのか私達だけの山頂になっていた。

北方には私達の進路となる美しい尾根もはっきり見通せる。頂上付近を雲に隠しているが日光白根山はかなり遠くだ。高度計を調整し地形図でまず向う方角と右曲する1900m付近までの高度差を各自で確認、直下の30mぐらまでは踏み跡があったが引き返したのかその後はなくなる。雪のたっぷり残る北面で下りは軽快だが1800mを切るあたりで雪は消え笹原が広がる。メルヘンの世界を自分たちと鹿だけがいるようで気持ちの良い世界だ。ただ難点をあげれば点在する樹木にしつこいほどマーカーが付けられている。

1600m国境平の水場は先客があり(女性の単独行者、勇氣あるな～)明日の行程を少しでも短くしたい事もあってカモシカ平までがんばる。ここ、カモシカ平はテントの為の整地など必要の無い白砂の大地、水場まで1分(汲むのは地道に)景色も美しい風も防げる最高のテント場。鹿の骨がゴロゴロあったって、「気にしない・気にしない」。

砂の適度なクッションでたっぷり眠れた。天気も良好、出発する頃には明るく、やはり春だなと思う。南面が登りで汗を流し、北面の下りを軽快にと行きたいがコースの設定は当然のごとく辛い登りの分量が多く、それに育ち盛りの笹・藪がプラスされ藪修行の足りない私は大苦戦、三俣山の手前では思いもかけない岩場もでてくるは地形図で読み取れるアップダウンで、もういいですと思っているのに等高線で表せないくらいの小ピークの繰り返しもプラスされる。

宿堂坊山、荷鞍尾根ノ頭、三林班沢ノ頭と北に日光に近づくにつれ標高も2000mを越えて上下するころには登りも下りも雪となり雪稜歩きが主体となってきた。「キック、キック、キック、キック、キック、ズル～、キック、ズル～」今日の最後の登りだと気を引き締めてキックステップをするものの、ちょっと気を抜くと...あがれない。

それでもなんとか錫ガ岳の山頂にたどり着く。

テント場まであと少し、Mさん先行にYさんも走るように下りて行く。おおよそ鞍部と思われる

地点まで下る、かなりの積雪量で「これは水場は埋まってるね」「雪があるからイイさ」という事で、あたりの危険要因など無い事を確認し今夜の寝床とする。

昨夜の情報によると今日の天気は下り坂、起床時間も30分早めて2時半起床としたがすでに小雨状態、風がときおり強く吹きつける。昨日の錫ガ岳から踏み跡が増えてそれまでの単独行者の物はうっすらとなっていて時間の経過をこんな事でも推測できて面白い(あの女性の方は1泊多く刻んで行動したようだ、増えた3～4人はたぶん五色沼避難小屋からのピストンと思われる)。天気は悪いが展望は悪くない、右手眼下に小田代ガ原、戦場ガ原を眺めながら男体山も裾野を覗かせて気分は最高。

西峰2394m、県境づたいに白根山に向う分岐。

ここで予定の白根山に行くか辞めるかの決議をとる。「天気は下り坂、回復は望めない、Fの脚力がさらに高度を挙げての岩稜と強風に耐えられるか？」等々。結果、今回は白根山は見送ることにした。進路を東に取り白根隠山・避難小屋分岐・風の強弱の間をつき耐風姿勢で突風の止むのを待つ。前白根の登りでは風に押し上げられて危うく山頂を行きすぎそうになり慌てて耐風姿勢を取ったりもした。(この日の関東は強風波浪警報が出ていた)

前白根山から天狗平をへて湯元スキー場へ最後の下り、急坂を一気にと行きたい所だったが木の根・腐った残雪・凍った水、泥とオモイッキリ難路。なんだか始めと終わりの一般道が今回の縦走の中で一番きたなく汚れたかも。

#### 【行程】

5月2日 晴

皇海橋(11:55)～皇海山(12:55)～カモシカ平(16:55)泊

5月3日 晴

カモシカ平(5:00)～三俣山(7:00)～宿堂坊山(9:55)～錫ガ岳(15:30)～錫の水場手前(16:25)泊

5月4日 雨・風強し

錫の水場(4:45)～分岐～避難小屋分岐～前白根～湯元スキー場下(10:30)

..... 5月8日(日)~5月9日(日) .....

## 奥多摩耐久山行

メンバー：黒田記代(L)、阿出川忍、日浅尚子、浅村和史  
記録：黒田記代、阿出川忍、日浅尚子

【目的】 奥多摩全山縦走 水と行動食の少量化を考える

【報告】 生藤山手前からはぐれ、2人は下山、2人は高尾山まで縦走しました。よって、はぐれるまでを阿出川、はぐれてからを日浅、まとめを黒田が書かせて頂きます。

<はぐれるまで：阿出川記>

について 日ノ出山から高尾山まで、コースタイムで28時間。単純に2で割って1日目は半分の檜寄山まで、2日目は高尾山まで歩くという予定で、元気に出発。50分に1回10分の休憩をとりながら、コースタイムに遅れることなく順調に歩き続けましたが、19時を過ぎてヘッドランプ歩行に変わったとたん、大幅にコースタイムをオーバーするようになりました。元気なのは浅村君だけで、3人は疲れと足の痛みに耐えながら、必死に三頭山に登りました。黒田リーダーより「檜寄山まで行かず、三頭山の小屋で仮眠し、その分出发時間を早める」というありがたい案が出され、すぐにみんな賛成！小屋で疲れた体をシュラフカバーで包みおやすみなさい。

あっという間に朝が来て、テープだらけのかわいそうな足を靴へ。仮眠によって体力は回復しましたが、足の痛さは増すばかり。歩き始めて3時間が過ぎた頃から又、コースタイムがオーバー気味に。熊倉山を過ぎて雨が降り出し、雨具着用。生藤山を過ぎればこの山行のめどが着くと確信していた日浅さんは生藤山手前の休憩からパワースイッチがONに！浅村君と一緒にドンドンスピードを上げ、見えなくなっていました。それまでは浅村君だけが先行して、頂上・峠・休憩で合流という形のパーティーだったのですが、生藤山頂上・茅丸・休憩時間でも先行組と合流できず、黒田リーダーはだんだん不安になっていった様です。「いないねー」という私ののん気な言葉と違い「おかしい、絶対におかしい」と繰り返し、生藤山手前の分岐を南に行ったのではないかと推測しました。もちろん、

携帯電話での連絡を試みましたが、通じませんでした。そこで、10時40分私たちが来た道をもどり、2人を追いかける事にしました。でも、その先でも結局会えず、全山縦走の気持ちは、だんだんしぼんでいきました。登山道が終わりアスファルトの急な下り坂(30分でバス停)を45分かけても下れず、途中でタクシーを頼み、藤野駅へ向かいました。足が痛くても頑張ろうという気が2人にはもう残っていませんでした。

<はぐれてから：日浅記>

熊倉山を過ぎて生藤山に向う途中で、パーティーが分裂してしまった。前を歩いていた日浅・浅村組は、生藤山を経て連行峰を通過し午前10時30分頃、そろそろ休憩かと思って止まった所が「山の神」の手前。ここで50分ほど待ったが、阿出川・黒田組とは合流できなかった。なぜはぐれたのか。

- 1) 先行組の歩きが速すぎた。
- 2) 要所要所(頂上や分岐など)で立ち止まり、後続を待たなかった。この点については、先頭だった日浅の責任が大きい。
- 3) 先行組が10分早く休憩していれば、その地点で合流できていたかも知れない。
- 4) どの道を通るのかを、地図上で確認していなかった。生藤山から先は、巻道、分岐などが多い。「和田」と「和田峠」など、地名も紛らわしい。4人が地図上でルートを確認すべきだった。

午前11時20分頃、通りがかった中年の女性から「30分ほど前に、大きいザックを背負った女性二人が生藤山に向っていた」と聞き、阿出川・黒田組は来た道を戻り、生藤山手前から分かれている道を通って和田の方面(つまり生藤山から南への進路)に下ったのだらうと想像。事故で遅れているのではないと分かり、少々安心。和田から陣馬山に上がってくるだらうから、陣馬山で合流できると思い、11時30分、日浅・浅村組は和田峠経由で陣馬山に向かった。陣馬山到着は、午後1時5分。和田から来る阿

出川・黒田組の到着は午後 3 時過ぎだろうから、予定時間には 4 人そろって高尾山口に下りられると考えた。はぐれてから何度も携帯電話をかけてみた。互いの電波状況が悪く通じなかったが、陣馬山で 2 時 15 分、阿出川さんからの電話をキャッチ。和田に下りて、藤野の駅にいるとのこと。日浅・浅村組は、継続を決め、陣馬山を午後 2 時 20 分に出発。

景信山着 3 時 50 分、城山着 4 時 45 分、高尾山着 5 時 45 分。稲荷山コースをたどって高尾山口着は 7 時だった。

今回の耐久縦走は、体力の問題よりも、靴ずれ、タコなど足の障害が大きな問題になった。足の裏の皮が剥け、爪が死に、足の底の筋肉がジンジンと痛くて、高尾山の下山は泣く思いだった。パーティー分裂という失敗登山に終わったが、失敗から学ぶという点では、反省点が山ほどあり、勉強になった。

<まとめ:黒田記>

について 個人差があるし、持っていないと心配なので、水・行動食は充分持ったうえで摂取を控えて今後の目安にすることになりました。当日の天気がかもりという事もあり、水は随分我慢できました。日浅さんは三頭山の水場に補給に行きましたが、水場が探せず(暗闇で滑りやすい)戻ってきました。水場通過の時間も重要とわかりました。行動食については私の場合、いつも好きなものを袋一杯詰めていましたが、今回はなるべく軽く、かさばらず、高カロリーのものを持って行きました。でも、その結果、休憩の楽しみが・・・袋を見て何食べようかな～っと思う、あの幸せなひととき(?)がなかった。少々重くても、かさばっても、好きなものを持つという事は私の山には大事な事だと思いました。こんな結果はダメでしょうか。

リーダーとしてパーティーが二つに分かれたことについては、私の判断が早急すぎたと反省しています。もう少し先まで歩いていたら合流できたでしょうから。でも何故、先行組は山頂や分岐点などのポイントで待てなかったのか?それまでは待っていたのに。急にこれまでと様子が違ってきたので、歩いているルートが先行組とは違うのかな?と余計なことを考え始めたのが判断ミスを犯すことになってしまいました。

ちょうどこのあたりから、巻き道や分岐がたくさん出てくる所で、ルートが一つなら問題は起こらなかったでしょう。各個人の体力差やその日の体調などによって、同じスピードで歩けないことはよくあることで、先行するのはOKです。でも後続との間隔が問題ですよ。体調不良で先行組と離れすぎると、詰めなきゃ悪いけど詰められない。先行組に悪いナー、とプレッシャーがかかってくる。ますます歩く気力が無くなり、歩くことがいやになる。でも反対に、ポイントごとに待っていてくれたら、頑張ろうと気力がわいてくる。そういうものですよ。

ガイド登山ではないので、遅い人に合わせて一緒に歩く必要は無いけれど、一つのパーティーとしての行動が要求されると思います。

【行程】

5月8日

日向和田駅(7:30)～三室山(8:55)～日ノ出山(10:00)～御岳山(10:50)～大岳山(12:33)～鋸山(13:51)～鞆口山(14:30)～御前山(15:59)～月夜見山(17:53)～三頭山(20:40)～小屋(20:55)

5月9日

小屋発(3:19)～槇寄山(4:23)～土俵岳(6:59)～熊倉山(9:12)～生藤山(10:01)

#### Mt.Movie

「死のクレバス - アンデス氷壁の遭難」(岩波現代文庫)。シンプソン著が映画になりました。1985年、ペルー・アンデスのシウラ・グランデ峰西壁で実際に起こった二人の若き登山家の遭難事件が、どんな山岳映画になっているのか・・・楽しみです。映画タイトルは「タッチング・ザ・ヴォイド」(ケヴィン・マクドナルド監督)。配給元に問い合わせたところ、今年の年末に、テアトルタイムズスクエア(新宿)などでロードショーの予定だそう。すでにDVDがイギリスなどでは販売されているようです。(研究生・日浅)

..... 5月8日(土)~5月9日(日) .....

## 三ツ峠 RCT

メンバー：横川秀樹(L)、伊藤幸雄、伊藤栄子、田口浩昭、山野美香、山野昭人  
記録：山野美香

5月8日(土)

定刻通り全員集合し、霧の中四季楽園へと向かう。予報では晴れ、しかし濃く広がった霧は晴れる気配もなく、肌がひんやりとしてくる。時間が早いせいなのか、まだほとんど人はいない。

6月の一ノ倉に向けて意思疎通を図っておきたい伊藤幸・横川ペア、今回初めてザイルパートナーとなった山野昭・伊藤栄ペア、同期・同年齢・実家も近所で息もぴったり(?)の田口・山野美ペアで、一般ルート左・中央・右にほぼ同時に取り付く。一般ルートの先は各パーティ思い思いに十字クラック、T字クラック、クローアールそしてその先へ……。前回敗退の紅葉おろしにトライしたり、懸垂ではロープが木の根に引っかかり登り返したりと、それぞれ楽しみ(苦しみ?)ながら基部へ戻った。その後は、地藏右・観音右ルートをつつろいで登った。どちらのルートも私の力ではとてもモードでは無理だと痛感したが、唸り、歯を食いしばり、喘ぎながらも“もう無理だ…降りようか”と迷っていると下からの確かなアドバイスが飛んできて何とか踏ん張れる(実は懇願しても降ろしてもらえないのだ!)。そして登り切った時の爽快感はなんともいえず、励ましてくれたメンバーに感謝。なんとか粘って登りきれば気持ち的にもその先に進めることを学んだ。

今日のテン場は駐車場ということで下山を開始すると、午前中にT字クラックトライ中に捻ったと思われる左ヒザが痛み出して思うように歩けない。亀の歩みを続けていると下からカラ身で登ってくる人がいる。見ればBさんで、どうしたのかと聞くと上がった息を整えながら「荷物持ちます」と一言。私は感激で胸が一杯になって言葉が出なかった。迷惑をかけたことを心で詫びながら荷物を託し、お陰でなんとか下山することができた。

晚餐が始まってからもCさんにはシブ薬を

頂き、Dさんにはイスを譲って頂くなど、皆に迷惑をかけたことは大変申し訳なかったが、思いがけずに心に染みる大切な体験が出来た幸せな山行となった。

5月9日(日)

5時40分出発。7時頃より横川・田口ペアは一般ルートを数回づつ登り、慣れるに従い上達していくのを実感。伊藤幸・栄ペアは亀ルートを八寸バンド直前まで行くも雨が降り出し中止を余儀なくされ、9時40分終了となった。

今回の三ツ峠では虫が多いのに閉口した。ビレー中は顔のまわりを飛び交っている無数の虫を払うわけにもいかず、Dさんは翌朝起きたら刺された耳が赤く腫れて大きくなっていて、これからの季節三ツ峠は虫除け対策が必須。

【行程】

5月8日

裏三ツ峠駐車場(7:30)~四季楽園(8:30)~一般ルート基部より登攀開始(9:20)~終了(17:00)

5月9日

裏三ツ峠駐車場(5:40)~四季楽園(6:40)~一般ルート・亀ルートに取り付く(7:00)~雨の為終了(9:30)

### お知らせ

#### メーリングリストのご紹介

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用にsanjc2004メーリングリストが運営されています。現在、本科生9人、研究生12人、同人3人、講師3人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

sanjc2004@yahoop.co.jp

..... 5月15日(土) .....

### 小川山ノ屋根岩2峰 セレクション

.....

メンバー：伊藤幸雄(L)、山野昭人、久野真由美、伊藤栄子(SL)

記録：伊藤栄子

I氏のリードでクラックをスタートし、カム・カム・カムで上がってもらい、Y氏・K女史・自分と続いたがカムを握り締めていても、足元が滑って一歩が上がらない。しかし、ぶら下がっているわけにもいかず唸り声をあげながら無我夢中でよじ登ったが、技術力の無さをまたまた痛感した。次に待っていたのはいやらしい(自分にとって)スラブで、少々乗り越す感じのところは何度も足を上げたり下げたり繰り返した。ソウコウシナガラモ、順調(?)に進み3ピッチ終了時余裕の休憩を取った。4ピッチ目Y氏リードでスタート、クラックからスラブに移る時に思慮深く何回か足を踏み換えていたが、すんなりと越えていき立ち木でピッチを切るつもりでいたが、もう少し進めるため岩の陰へと上がっていった。「あ

と1m行きます」の声を聞いて待つこと暫く、3人が続いていった。が確保地点までの距離は長くY氏もロープが不足するのではと心配した様だった。そして5ピッチ目を進めるまでもなく、終了点となった。最初の立ち木でピッチを切ると、トラバースしてのルートだったようだ。おまけでカモシカ道を懸垂練習し、終了点より30m懸垂下降で帰路に着いた。自分は以前一度登っているルートだが、どうやって登ったのかな?と思う場所は難しく、怖い思いをし、やはり経験を積まなければ上手にならないと再確認した。

【行程】

取り付き(9:00)～終了点(12:00)～キャンプ場

..... 5月30日(日) .....

### 日原川ノ鷹ノ巣谷

.....

メンバー：黒田記代(L)、山野美香(SL)、山野昭人、福田洋子

記録：黒田記代

朝8時奥多摩駅に集合し、車で東日原駐車場に向かう。駐車場で身支度を整え、沢シューズも履いて出発。鷹ノ巣谷への指導標に従い、日原川へ下り、巳ノ戸橋を渡り左折して出合いに到着。地図で現在位置と方角から入渓する鷹ノ巣谷を確認の上、大滝を目指してスタート。山野美香さんは膝の靭帯を痛めているので今日は入渓せずに、我々が戻るまで川原で待っていることになった。順調に遡行し大滝に到着。

今回の自主山行の目的は、今夏の北穂・東稜山行に向けてのロープワークの確認と登攀等のトレーニングにある。大滝に至る途中で一回ロープを出して通過。大滝ではフィックスロープを張って登攀し、懸垂下降で大滝を下った。もっと大滝で支点の構築の方法や確保での登

攀など、いろんなロープワークのトレーニングをしようという事になっていたが、後続グループが2組来たので、大滝でのトレーニングはあきらめて、来た沢を下降することになった。何度も懸垂下降をして無事出合に戻った。美香さん、長い時間待ってもらって、ご苦労さまでした。

今夏の山行計画に際して、私が参加メンバーと一度もロープ使用の山行を共にしたことがなかったので、ロープワークの確認とともに行動を共にすることが出来て、短い時間ではありましたが、それなりの成果が得られました。

【行程】

入渓点(8:45)～大滝着(11:20)～大滝下山(12:30)～出合(15:20)

## 今月の TIPS (No.3) ~セルフビレイの疑問~

セルフビレイで悩んだことがありますか？ 真剣にクライミングに向き合いはじめた人は、一度や二度、どうするのが正しいのだろうかといういろいろ考えた経験があると思います。例えば

- ・ロックゲレンデで、ビレイヤーはセルフビレイが本当に必要かどうか。人工壁ではなぜしないのか。
- ・リードして終了点(ビレイ点)に着いたとき、セルフビレイは、メインザイル、ヌンチャク、スリング(デージーチェーン)のどれを使うのが良いか。
- ・懸垂下降のとき、下降前のセルフビレイはヌンチャクかスリング(デージーチェーン)か。また2本必要かどうか などなど・・・

クライミング初心者にとって(あるいは中級者にとっても)、考えれば考えるほど迷うのがこのセルフビレイです。これを分かりやすくするために、4つのパターンで考えてみます。

ゲレンデ、沢、ショートルートでのビレイヤー(マルチピッチでない場合)

マルチピッチ・・・リードした後    マルチピッチ・・・フォローで登った後    懸垂下降時

以下、回答(一例であって、他の方法、他の考え方もあります)及び簡単な解説です。

基本は「セットする」だが、ケースバイケース。セルフビレイをしない場合、できない場合もある。

まずヌンチャクでセルフをセット。支点構築後、メインザイルでもセットし、ヌンチャクを解除。既に残置ロープによる信頼できる支点があれば、すぐに環付きピナをかけてメインザイルでセットがよい。

つるべ式ならば、すぐに登り始めるためヌンチャク(デージーチェーン)で OK。もちろんメインザイルでもよい。つるべ式ではない場合、メインザイルでセット。

スリング 2 本(デージーチェーン 2 本でも良いが、現実的でない)で二箇所からセット。二箇所とする理由は、特に本番ルートの懸垂支点で、錆びたリングボルトやボロボロの残置スリングにセルフビレイをセットすることが頻繁にあるため。(研究生・横川)

..... 5月30日(日) .....

## 日原川ノ戸ノ戸谷

.....  
メンバー：横川秀樹、伊藤幸雄(L)、渡部吉実  
記録：渡部吉実

いつものあずまやに設営したテントのファスナーを開けると予報に反して抜けるような青空だった。川べりにはひとりの釣り師が朝のひとときを楽しんでいた。

テントを撤収し朝飯を掻き込んでいると伊藤さんの携帯に横川さん到着の一報が入る。7時すぎに駐車場を出発し八丁橋へと向かう。7時半に八丁橋着。沢支度を整え巴ノ戸谷合

流点を探しながら最近舗装されたばかりの林道を歩く。南方から立派な尾根が延びていて地形図からその左側に巴ノ戸谷が流れていると予測。林道左側に釣り師の付けた踏み跡がありこれを下降すると本流に出た。上流を見渡すと右岸より沢が合流してくる雰囲気あり、少し溯るとこれが巴ノ戸谷合流地点、標高 725m。ここで全員高度計を合わせ記念撮影。本流は大雲取谷、

小雲取谷、唐松谷など規模の大きな沢を合わせているので水量豊富(両雲取谷とも流域はブナの原生林が多く残されていて天然のダムとなっている)で梅雨入り前は徒渉も楽だが梅雨時や増水時は困難だろう。

さて巴ノ戸谷だが出合の水量からは「この先に本当に悪場が存在するのだろうか」と疑いたくなるような第一印象だった。しばらくいくと広河原のゴーロが現れ昨日水根沢のワサビ田で見た流出防止ネットが砂利に埋まっていた。これでこの沢ももうワサビを作っていない。つまり94年の遡行図に載っている仕事道も荒廃して使えないのではないかと思った。鷹ノ巣谷でもやはりワサビ田跡は支流に入って流れがチョロチョロになった所くらいしか残っていなかった。ワサビを作れる沢は大雨や台風が来ても水量が極端に増えたり長いあいだ雨が降らなくとも水量が安定して流れるというようなところでないと無理なのだろう。

F1、巴ノ戸の大滝は直登不可、記念撮影して右側を高巻いた。核心部忌山の悪場に入るとはじめの4mに挑戦するも右側はからだが入るが手、足とも良いホールド無く打たれる流水の冷たさに戦意喪失、少し戻ってトラバース。つづく5mも右側からトラバースできそうだがちょっといやらしい。ザイルを出すこととする。支点がないので初めてハーケンを打った。富戸の岩場では仮打ちしたことがあるが恥ずかしい話、沢ではこれが初めてだった。これもほどなく通過したが次の8mが悪い。右も左も悪そうで、唯一古ぼけたハーケンが左の側壁にあり教科書どおりここに行くこととする。横川さんがリードしてくれて私も続いて登ったがかなりいやらしい。2年くらい前に山本篤さんのこの谷の講習会で鷹の巣の稜線に出たのが20時すぎになったと聞いたことがあるがそれもこの感じで理解できる。ここを抜けると悪場もさして強烈なところはなかったように思う。ただし水量が多いと表情がずいぶん違ってくるかと思う。鞆口窪を過ぎると右岸にネコの額ほどの高台がありその下にタンとブリキのパケツが散乱していた。小屋があったのだ

らう。

さらに孫七窪、五平窪と通過するにつれ大きな倒木やガレ場が多くなり次第に源流らしくなってきた。しかし地形図を見ると源頭はほど遠い。94年の遡行図では1180m地点にワサビ田が書かれていてそこから仕事道があるということでそこまで一応行ってみようということだったが1190m地点を過ぎても跡形もないようす。上流側に次第に雨雲が掛かってきたし仕事道もなさそうなのでここで遡行終了とし昼食にした。

これより下降開始、「チーム：一ノ倉沢」(横川さん、伊藤幸さん)の二人のあうんの呼吸というか、1を云えば10までお互いにわかるような二人の絶妙なチームワークに私は圧倒された。さすがに本チャンルートをこなしてきたふたりだ。この場面で何を迅速に確実に行わなければならないのか記憶を辿っているうちに二人は着実にそして正確にこなしていた。私は今年初めての沢が昨日の水根沢で今日は2回目と思いつくのが精一杯といったところ。定期的に仲間と自主を組み復習するようにしたいと思う。登るのに苦労した滝も懸垂で降りるとあっという間、忌山の悪場もてこずることなく通過できた。林道に上がったのが3時ちょうど。お互い握手をして無事を祝った。

いままで沢登りに8mmの補助ザイルを使用していたが、昨年の上越・登川支流米子沢での他パーティの滑落事故、救出ヘリコプターを目のあたりにしたときから「果たしてこの補助ロープでビレイしていてトップが落ちたとき衝撃に耐えられるのか」という疑問にかられ今年から8.3mmの40Mザイルを携行するようになったのであるが良く使うからと首に巻いて沢を歩いていると重い。やはり沢ではセオリーどおり8mmの30Mが良いのかなと思った。横川さん、伊藤さんお疲れ様でした。次週の一ノ倉沢の無事を祈ります。

【行程】

巴ノ戸谷出合(8:30)～遡行終了1190m地点(12:30)～林道(15:00)

\*\*\*\*\*

こちら技術委員会～講師/金沢和則～

\*\*\*\*\*

[山塾の夏山サバイバル講習]

7月に山塾で例年行われる夏山サバイバル講習会がある。山でのトラブルから身を守る心構えとその技術の習得をすることが目的だ。CUや研修参加と研究生以上でも何度も参加することでより確実にものにす。また本科メンバーとのコミュニケーションをつけるいいチャンスでもある。技術委員会としてバックアップするときだ。

ここでの内容は、

- 基本的ロープワーク再確認
- 懸垂下降でのトラブル処理
- ビレー時のトラブル処理
- 渡渉など沢でのロープワーク
- その他

これらを通じて、ピンチに至らないための技術的な対応策とセンスを養う。当日は時間的な制約もあり技術的な面を先行させてしまうが、身を守るという心構えは山に出かけようと思った瞬間から始まる。

山に出かけるとき、いい意味でも悪い意味でもドキドキすることはいくらかもあると思う。計画段階では、山域についての情報や準備する用具や食料そしてメンバーのこと、出発時では天候やアプローチ手段でのトラブル、行動中では天候や行動ペースそして地図読みや行動判断など、不安に思う要素はいくらでもある。漠然とした不安な要素もなにがどう足りないのかなど、はっきりわかっているだけでもかなり余裕が出てくると思う。そう、かなりの部分、出発前の準備での心構えで変わってくると思う。

それにはどんなことがあるだろうか、

- 山に入るための環境作り{自分の気持ち別の言い方をすればモチベーション・周囲へ

の配慮、山行計画書や山岳保険といったことも含めてです}

山の知識の収集{山域の情報や読図・気象・動物の生態その他}

山の道具(必須アイテム)忘れちゃならないツェルトやヘッドランプなど

そして四つ目に事前に習得が必要となるロープワークがある。

あ～っ、山ってかなりエネルギーいるよな。それに始まっちゃうと途中でリセットするのも大変だし…。と、そうはいつでも、はじめから上を目指すと大変なだけで、段階的に順を追っていけばなんとかなるといもの。

こんな事前の準備や心構え。そして技術的な習得そして臨機に創意と工夫。それでも防げないピンチ一歩手前の数々。おしゃべりなどに気を取られ道を間違ったり踏み外したり。また思い込みによるルートの判断ミス。なぜか同じ環境にいとメンバーがみんな催眠術にでもかかったように同じ思い込みをしていることも…ま、笑い話で終わればいいのだけれど。

そうそう北アルプスの縦走での話。ガスの中、地図読みしながら尾根を進む。小屋が出てきてホッ!! その中で小休止。さあ、出発だ。さらに濃くなって来るガス。地図とコンパス出してメンバーのひとりが確認し、進路の北に向かう。しばらくして他のメンバーが「あれっ、ここさっき通過した地形に似てない?」「え～っ!コンパスで確認したじゃない。見てよ、北でしょ北、コンパスの針は白いほうが北、寒いイメージから白いほう。赤いほうが暑い南のイメージだから南でしょ、ね」「……………」

あ、この話、別にオヤジギャグではないですよ、ホントにあった話だそうです。人って特殊な環境では何を考えてしまうかわかりませんね。本当に。

ともかく思い込みが過ぎるといろいろトラブルも…視野を広くがいいのかな。

\*\*\*\*\*  
同人便り

～坂口理子～  
\*\*\*\*\*

今回、編集長よりいただいたお題は「梅雨時の過ごし方」……が、しかし。室内壁？混んでんじゃん。沢？水増えてコワイじゃん。雨の日は何にもしないもんね、という軟弱な私。雨が降ったら山なんか行かないし、従って、風雨が吹きすさぶ中、山にいるなんてことは有り得ない……ハズなんです。まあ、有り得ないことがよくおこるのが山の中。「こんなはずじゃなかった」とぼやきながら雨音を虚しく聞くテントの中。今回は、そんな停滞のテント内のヒマの潰し方について考えてみたいと思います。題して……、「あまり役に立たない梅雨時の過ごし方～テントでの停滞編～」。

寝る

これこそ、唯一無二の停滞の醍醐味と言えるでしょう。停滞と決まった瞬間、失望と共に何故かしら湧き上がる安堵感。そして恍惚の「二度寝」。停滞でしか味わえないこの惰眠を心ゆくまで貪りましょう。

料理

とはいえ、人間、そんなに寝続けることはできません。遅い朝食と共に、なるべく時間のかかる料理にチャレンジしてみましょ。過去の例としては、干しアンズの紅茶煮(水分がなくなるまで煮込む)とか、タタミワシのしらす仕立て(1匹ずつにほぐす)とか。

宴会

食事の後はやはりこれ。テントを叩く雨音を肴にチビリチビリやるのもよいものです。あまり長くやり続けると歯止めがきかなくなる恐れがありますが、酒が早くなる分、下山行動がスピーディになるというメリットもあります。

ラジオ

これも気晴らしにはもってこい。天気予報もチェックしておきましょう。だいたい下界の晴天に胸をえぐられるオマケ付です。ホロ酔い加減だとかかなり切なくて、泣けます(以前、海の日に、どしゃぶりの中できいたハワイアンソングも泣けました)。

遊ぶ

停滞の時に、さりげなくザックからトランプなどが出てくると、大変尊敬されます。晴れているとバカにされますが、あとは、携帯の着メロカラオケなどがありますが、こちらは電池の消耗が激しいのでオススメしません(経験済)。

また寝る

それでも何でも時間が余ってしまったら……やはりこれに尽きます。

以上、～を繰り返していれば、停滞の退屈な1日なんてあっという間に過ぎていきます。後は、明日の行動に備えて寝るだけ。え？もう寝られない？そんなこと言わずに…お休みなさい。ぐう。

おまけ：新しい傘を買くと、雨の日が楽しくなります。これは、ほんと。

テント食3分クッキング

ゆで時間90秒のマカロニをみつけました。  
「マ・マー」の「早ゆでサラダクルクル」です。  
熱湯で3分でもOK。即席パスタソースやマヨネーズとあえるなど、食べ方はいろいろ。  
ゆで汁は捨てずにコーンスープに使うと水の無駄がありません。また、即席スープに加えればボリュームアップに。  
一袋180グラム(約700キロカロリー、約2食分)。テント食におすすめ。スーパーのパスタ売り場にあります。

(研究生・日浅)

## 編集室だより

やっぱりきました、梅雨の季節。この時期を待ち望んでいるのは「6月の花嫁」くらいではないでしょうか。雨が嫌いな訳ではないけれど、過ごし方が制限されてしまうというのはツライですね。せっかくの自主山行が中止になったらするとガックリ！ポツカリあいたその日をどう過ごせばいいのか。クライミングジムは混んでいるし、山道具屋さんを覗けばついつい買い過ぎてしまう…。ありきたりではありますが、そんな日は山道具の手入れや片付けでもしようと思つて部屋の中をゴソゴソすると出てくる出てくるロープが8本。我が家はロープ以外の道具もすべて2人分…それを眺めながら片付ける場所がないなあと途方に暮れているうちに、いつしか意識は未だ見ぬ山々へと…。

そう、たくさんの山道具を眺めるよりは、地図でも眺めて夏のプランでもたてましょうか。劔合宿に沢集中企画、北岳バットレス etc…、次から次へとカレンダーを見ながらパズルのように予定をはめ込んでいきます。

雨の日…それはスケジュール表が山行予定で埋め尽くされていく、有意義な一日となりました。そんなこんなで今日も山道具は片付かず。

さて、6月号も無事発行することができました。ご協力頂きました皆様、ありがとうございます。今後より一層充実した「岩小舎」を目指し、皆様からの投稿を募集しております。山への想い、行動食の工夫、軽量化へのこだわり、下山後のお勧めスポット、環境問題やお勧めDVD等々、テーマは自由です。どしどしお寄せ下さい。

(編集長)

~\*~\*~\*~ 6月の一言集 ~\*~\*~\*~

「ボキッ、パキッ、バキバキッ、ポッキン、ベリッ!!」  
これGW縦走中の音。「ガサガサッ、ボキボキッ、ズゥーリ、ズゥーリ、フゥ〜」これはチェアキャンプでの薪集めの音。…自然は大切に。(FUKU)

パチスロ『北斗の拳』、全国のホールにて大ブレイク中。少々熱くなっています。健全な皆様はやらぬよう。毎週山行っている方が多いです。(松本)

奥多摩全山縦走で痛めた足。右は人差し指の爪、死んでしまいました。左は親指と小指に挟まれた3

本の指の痺れ、今も続いていて心配です。(阿出川)

「小川山廻目平キャンプ地・滞在時間・最短記録更新なる！？！」何か意味あるの…「ま、そう言わず」(kanazawa)

毎週末山の中にいて、岩あり、雪あり、踊りあり、ささて月末は沢がある。山行記録を書く機会も増し、時間ばかりかかって他のことに手がつけられない日々。(えいこ)

1day 北穂ピストンで体力の低下を痛感。減量と禁酒を誓った。しかし、チェアキャンプではしっかり飲みすぎて…意志の弱さを痛感！痛感多き5月でありました。(YUI)

5月も終わり、しばしスキーとさようなら。最後を飾る高田大岳と鳥海山の大斜面、気持ちよかった〜。(久野)

ショッキング・ピンクの入会案内書「無名山塾を知っていますか？」が堂々完成！カモシカ、秀山荘、ICI石井他に置いてます。(横川)

アバラを少々痛めました。山ではなく風呂場でコケて。危険は本当に身近なところに潜んでいるものですね。皆さん、気をつけましょう。くわばら、くわばら、よこっばら……イテテ。(R子)

小川山セレクションの3P目では、ヌンチャクを掴みながらボルトに乗るといふ、ダブルA0の極意を掴んだ。安全第一。鷹ノ巣谷では、易しい沢でも下降となると45mロープ2本が必要と痛感。(山野昭)

足の皮を厚くしたい。ツラの皮くらいに。(ひあさ)

発見デース！沢と、冬のアイスクライミングは、水が溶けているか、凍っているかだけの違いなんですね。これって、5月の沢が、すごく楽しかった言い訳、カモ？(小林幸恵)

5月の東北は良かった。残雪あり、輝く新緑あり、色鮮やかな花々あり、心休まる人々あり、そして美味しい酒あり…うん、ほろ酔い気分で満足(ゆKIお)

かなわぬ夢…皆とワイワイ深川クライミングウォール。いいな〜(kuroda)

## 5月の山行一覧

	種類	場所	日程	メンバー	記録
1	自主	藤坂ロックガーデン RCT	4/29-30	4/29 横川, 伊藤幸, 浅村, 山野美 4/30 横川, 浅村	浅村
2	講習	白馬東面 / 杓子岳双子 尾根	5/1-3	田中良, 宮下卓, 浅村, 田中治, 斉藤, 阿出川, 小林幸, 伊藤栄	伊藤栄
3	講習	八甲田山 / 山スキー	5/1-3	工藤, 伊藤幸, 久野, 横川, 遠足 1 名	伊藤幸
4	自主	雪倉岳 / 山スキー	5/1-3	岩本(L), 金沢, 坂口	岩本
5	自主	皇海山 ~ 日光白根山	5/2-5	福田(L), 松本, 矢田	福田
6	自主	奥多摩全山縦走	5/8-9	黒田(L), 日浅, 阿出川, 浅村	黒田他
7	自主	三ツ峠 RCT	5/8-9	横川(L), 伊藤幸, 伊藤栄, 田口, 山野昭, 山野美	山野美
8	自主	小川山 / セレクション	5/15	伊藤幸(L), 伊藤栄, 久野, 山野昭	伊藤栄
9	講習	不動沢の岩場 RCT	5/15	加藤, 荒井, 横川, 木之下	横川
10	-	廻り目平 / チェアキャンプ	5/15-16	岩崎, 工藤, 金沢他計 28 名, ゲスト 20 名	伊藤由
11	講習	鳥海山 / 山スキー	5/22-23	工藤, 坂口, 伊藤幸, 伊藤栄, 斉藤, 久野, 遠足 1 名	伊藤幸
12	講習	奥多摩 / 逆川	5/23	小林, 宮下卓, 向原, 福田, 南谷, 木之下, 田中, 福島, 遠足 2 名	福島
13	講習	日和田 RCT	5/29	金沢, 坂口, 松本, 黒田, 伊藤稔, 遠足 2 名, ゲスト 4 名	-
14	自主	奥多摩 / 水根沢	5/29	伊藤幸(L), 伊藤栄, 福田, 斉藤, 南谷	-
15	自主	日原 / 鷹ノ巣谷	5/30	黒田(L), 福田, 山野昭, 山野美	黒田
16	自主	日原 / 鷹ノ巣谷	5/30	伊藤栄(L), 阿出川, 斉藤, 南谷, 小林幸	-
17	自主	日原 / 巳ノ戸谷	5/30	伊藤幸(L), 渡部, 横川	渡部

## 月刊 岩小舎 7月号の予定

(2004年7月15日発行)

### 【掲載予定】

#### 講習山行

カモシカ山行 / 三頭山 ~ 和田峠

丹沢 / 滝郷沢(左俣)

#### 自主山行

一ノ倉 / 南稜, 中央稜

熊倉沢 / 左俣, 右俣

日和田 RCT

盆掘沢・ナメイリ沢

シダクラ沢

岳嶺岩 / A1トレーニング

カモシカ山行

・三峰 ~ 雲取山 ~ 石尾根縦走

・八ヶ岳南北縦走

・八ヶ岳全山縦走

・三宝山 ~ 陣馬高原

原稿は7月5日締め切りです。

発行 無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)

住所 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

電話 03-3941-3481

FAX 03-3941-3482

HP <http://www.sanjc.com/>

編集長 山野美香

編集部 坂口理子

福田洋子

横川秀樹

机上講座の予定(於: 豊島区立勤労

福祉会館, 19:00 ~)

6月24日(木) 「ロープワーク」

7月22日(木) 「テント山行の準備・

パッキング・生活技術」

8月26日(木) 「山の天気と気象遭難」